



にじのはし幼稚園 園だより



令和3年9月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

2学期の始まりを迎えた職員室に、隣の芋畑から涼しげなコオロギの鳴き声が響いています。季節は少しずつ秋へと向かい、暑さの和らぎを感じます。

さて、夏季休業中に、全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会（新潟大会）が、オンライン開催されました。会の中では、特色あるPTA活動の紹介や「子どもたちの豊かな感性と創造性を育むPTA活動」「園・保護者・地域が一丸となって子どもたちの育ちを支えるために」などの提案発表がありました。PTAの目的を ○幼児教育の重要性を理解し、教育活動を支援する ○会員の教養を高める ○主体的に活動する、などと設定し、組織的に取り組んでいる内容を具体的に提案され、大変勉強になりました。

また、糸魚川市教育委員会の横澤 富士子様（タレントの横澤夏子様のお母様）の記念講演もありました。テーマは「大人も子どもも夢を叶えるために 今 私たちができること」でした。主な内容は次の通りです。

- ・子どもの心の成長は、甘えと反抗の繰り返しで発達する。
- ・いっぱい泣いて甘えた赤ちゃんは安心して意欲が湧く。
- ・子どもが反抗するのは意欲がある証拠。やがて自立に向かっていく。
- ・アタッチメント（愛着・愛情）が形成されるということは、親と子の絆ができること。やがて、子どもの自己肯定感につながる。
- ・アタッチメントの形成は、いつでも、誰とでも、何歳からでもできる。
- ・抱きしめられたり、「大好き」「かわいいよ」と無条件で受け入れられる経験によって、保護者から愛されていることが、子どもの中に感覚的に入っていく。
- ・子どもがどうにもならない感情の時は、抱っこして、受け止めて、気持ちが納まるまで待つ。
- ・子どもの力を高めるのは、親の力。そのために、「○○してはダメ」ではなく「○○してね」と声を掛ける。理由を伝えることが大事。

アタッチメントが形成されると、子どもがネガティブな感情を経験しても、感情を立て直していくことができます。そのことが「自分にはできる」という自信となり、やがて自立性、自己効力感、心のたくましさにつながると言われています。

アタッチメントと心の発達は大きく関係しています。

子どもたちの体、心、脳の健やかな成長のために、今学期も園と家庭が協力して子どもたちを育てていきましょう。

どうぞよろしくお願いいたします。

